

林大だより



第 88 号 令和 6 年 10 月 31 日

長野県林業大学校翌協会



2 学年 5 月 山の環境学（上高地）



2 学年 6 月 北海道研修



1 学年 4 月 屋久島研修

ようこそ林大へ!!

翌松会 会長 赤羽 清吉



県内出身者を始め全国各地から長野県林業大学校への進路を希望され、この地に生活拠点を置くことになり、全寮制の二年間を過ごすこととな

ります。慣れない寮生活や学校生活に期待あり、不安も感じる学生の皆様、あるいは学生以上に期待あり不安を感じる保護者の皆様：当然です。私もその一人です。私は本年度翌松会会長を務めさせていただきますこととなりました地元木曾町出身の赤羽です。学校まで五分ほどあれば到着するということで選出されたかと

思いますが、宜しくお願い致します。さて、地元木曾町での林大生は地域で必要とされる人材であり、年間通しての各種イベントへの参加が学校生活以外に沢山あります。私の知る限りではありますが、一つ紹介させていただきます。皆様のお手元にあると思いますが、令和六年度長野県林業大学校便覧は年間行事・授業計画というものが掲載されています。研修会・寮祭・資格試験等の日程があることは当然ですが、不思議なことに

地元木曾町の駅伝大会（予定）が記載されています。この大会は旧木曾福島町の頃から開催されていて、過去には林大チームが連続優勝するなど輝かしい成績を残しています。町村合併により現在の木曾町大会へと変わりましたが、昨年の十回大会は子どもから大人まで四十チーム二四〇名が参加されています。地域の声援を受け走る林大生はとても輝いています。また、林業大学校のある杭の原公民館とも関わりを持ちながら、イベントにも参加して

います。地域の暮らしを学ぶことで社会人としての多様性を学び、勿論将来の目標である林業に特化した講義・一般教養や現場体験を学び、創造性を高め、未来の長野県々全国へ世界へと羽ばたいていくこととなる人材に中宿学校長を筆頭に教職員の皆様に支えられ、二年間の学校生活を過ごしていくことでしょう。翌松会も学校生活の情報共有を図り、会員の皆様のお力添えを頂戴して盛り上げていければと考えています。

一期一会

長野県林業大学校 校長 中宿 恵司



日々接することに身が引き締まる思いとともに、私も当校の五期の卒業生でありますので、懐かしさと何とも言えないムズムズ感を持ちながら着任いたしました。

この度、四月一日付けで林業大学校校長を拝命いたしました。林業普及分野には二十三年の経験はありますが、教育分野の職場は初めてであり、志を持った若者と

当校は開校より「全人教育」の教育方針のもと、四十人が力を合わせて、起床から就寝までの間、自己管理を基本として全寮制により学業・日常生活を送っております。

この生活を通して、挨拶、整理整頓、時間管理、そして相手を思いやる行動等、人としての必要最低限のルール、マナーを身につけてきております。一年生の時は少し頼りないかと思われる学生も、半年も経つととても逞しくなり、頼もしく感じております。人が社会において生きていくためには、一人一人が自覚とプライドを持ち、自らの信念の上に自身が磨いた知識と技術を活かし、そして何より人とのネットワークが重要だと私は考えております。学校や寮生活で多彩な仲間

たちと、お互いの多様性を認め合いながら共生し、各人が青春を謳歌し共に大きく育て欲しい。また社会に出てからは、人と人との繋がりが自分を豊かにし、様々な場面において相互が共助することで、結果として素晴らしい社会を創り上げることに繋がると思っています。

学生の皆さんは、「一期一会」、この言葉の意味を噛みしめ、出会った全ての人に対し感謝の気持ちをもって日々生活し、しっかりと人間性や社会性を高めて、自分の意思で将来への道を選択して、今後

一山百楽のすすめ

中部森林管理局長 森谷 克彦



皆さんは「一山百楽」という言葉を聞いたことがあるでしょうか？

山をこよなく愛した山岳写真家で昆虫生態の研究者でも

ある田淵行男（安曇野に記念館があります）という人の言葉です。戦中疎開で安曇野に移り住み、常念岳に二〇〇回以上登り、沢山の写真や学術資料とともに、一つの山でも百の楽しみが味わえる」という言葉を遺しました。未知なる山に憧れ、新しい山にチャレンジすることは楽しいものですが、一つの山に回

重ねていても、晴れの日も、雨の日も、雪の日もあり、また、新緑も紅葉も、様々な表情を見せてくれるように、いつもの山でありながら新たな発見が必ずあります。彼の写真は、同じ被写体でもどれも違う表情を見せてくれるのです。山は必ず新しい観照（主観を交えないで物事を冷静に観察して意味を明らかにすること）を与えてくれるものだと感じさせてくれます。先日、白馬山系で、同じ山に登るのはもう五十回を超えたという八十歳の女性に会いまし

た。「山は登るたびに表情を変える。一期一会さ」と。何度歩いても飽きない山、季節ごとに違った姿を見せる山、それがふるさとの山なのかもしれません。

皆さんは、大学校で森林・林業に関する技術など沢山のことを学びます。日々新しい知識と経験が積み重ねられ成長していきます。でも、森は、山は、生き物です。今日は視線を少し変えて森を見てみませんか？立ち止まって、辺りを見渡してみませんか？いつもと違う人と話をしてみませんか？きっと昨日とは違う発見が待っています。デジタル（例えば効率化）はもちろん大事ですが、アナログ（慣習や道理）には物事の始まりの基本が込められています。大切にしてほしいと思います。物事の見方や人との接し方は、幾百通りもあります。足元を見て過ごすのではなく、顔をあげて今日は少し広い景色を見てみたらきっと、皆さんはひと回り成長していることでしょう。自らの可能性は学舎の中にも外にもありますよ。

国土緑化から人心緑化へ

長野県森林組合連合会 代表理事会長

藤原 忠彦



皆さんは、木曽谷の雄大な

自然環境に囲まれた施設と自然を満喫できるキャンパスライフで仲間との絆を深め充実した日々を過ごされていることと思います。

私の生まれ育った川上村は、かつて陸の孤島とも呼ば

れた貧村でありました。その後、高冷地の冷涼な気候を活かして、レタス、白菜等高原野菜の全国的にも名高い一大産地となりましたが、農業立村としての繁栄に貢献し、支えてきたのが林業でした。

林業は、地域経済の原動力となり、地域住民の生活基盤を支え、森林からの恵みによりその資源を最大限に活かして世代を超えて受け継いでいく産業であります。

私は、森林の中での体験が

ら、森林の重要性を肌で感じ取り、生活の糧も得て、生きる術としていました。子ども達にとって、森林は遊び学ぶための最良の先生であり、人格形成のための優れた教材であります。しかしながら、現代の画一化された学校教育、受験戦争、遊びと言えばスマホ中心で、生きるための自然の理と術を知らない子ども達の将来に危惧を感じます。

「森こそ教室」として生涯一度も教壇に立たなかった東大名誉教授の高橋延清先生が中心となり昭和六十二年に発表された「緑維新 京都宣言」の冒頭に「自然を離れて

は、人間のいかなる営みもあ

りえず『自然との共生』に根ざした「人心緑化」こそ新たな国づくりの理念としなくてはなりません」とあります。スマホの画面だけでは「自然との共生」を学ぶことはできません。基本は人づくりです。人の心に緑を、森林に融け込み、森林と語り、森林を理解してこそ、初めて、私達の目指す多機能林業、未来に向かっている持続可能な林業が展開できるのであり、森林を創ることは人を創ることでありと確信しております。

これからは、そこに宿命的に共存する悠久的な森林資源をいかにより良く使いこなせる人材を創っていくかが、地

域の人づくりの課題であり、森林は人の魅力をも作り出してくれる潜在的可能性を持っているものと信じています。人的資源と同じく森林資源は、地球上に残された最大の循環資源であり見捨ててはなりません。この貴重な森林資源と共生して、グローバルな観点に立ち適正に維持していくことが、今日の使命であると思います。

長野県の豊富な森林資源を多様な分野で活用し、全国トップの森林・林業県として着実に進展させるため、その中心となるべき皆様のご成長と今後のご活躍を心から祈りしています。

学生のページ

あすなるの呟

つぶやき

学校・寮生活から

これまでの振り返って



1学年 石川 遼人

林業大学校に四月に入学して、半年がたちました。入学にあたって不安な

ことが多々ありましたが、その中でも一番の心配事は寮での生活についてです。私は寮での生活というのを経験したことがなく、「先輩が怖かったらどうしよう」「寮での生活をちゃんとやっていけるのだろうか」と不安を抱えて入学しました。実際に入学して分



1学年 4月 特用林産学

かったのは、先輩は怖くなかったということ。はじめは徒党を組んでカツアゲなごされるのかと思っただが、各々が自由で生き生きと生活しており、意外にも自由が多かったという印象をうけました。初日の夜に自販機でおごってもらえることもありました。このような先輩のやさしさもあって、のびのび

と生活することができています。運よく二年生になれたら新入生にも同じようにしていきたいです。

林大に来て思ったこと



1学年 岩崎 陽也

林大に来て半年が過ぎた中で、多くの経験と楽しさを味わうことができました。

私は、高校で森林のことにについて勉強していましたが、更に深く学びたいと考えたため、この林業大学校に入学しました。いざ、入学するとなったときに不安がありました。それは寮生活でした。寮での生活は初めてだったため部屋の人と打ち解けられるか心配でした。でもその必要はありませんでした。同級生も先輩もとてもアットホームな感じで、すぐに話せるようになりました。

そして次に授業では、授業が開始したはじめは高校で習っていたため苦戦すること

なく、「正直もつとレベルが高くてもないな」と思っていました。しかし、授業を受けていく中で分らないところが徐々に出てきて、頭を悩ませることが多くなりました。新しいことを学ぶといううれしさと面白さで自分の背筋を伸ばすことができ、いい刺激になりました。これから残りの四分の三の時間を有効に使えるようにしようと思いました。

林大に入学して



1学年 五條 滉也

四月に長野県林業大学校に入学してから約半年が経ち、入学前とは違う生活にも慣れてきました。入学当初は、初めての寮生活に対する不安がありました。今は優しい先



1学年 5月 造林学(育苗)講義実習

輩や先生達のおかげで楽しい毎日を送れています。自分については、普通科高校出身で林業について全く知らない状態が高校生の頃は運動部でもなかったため、知識面や体力面で授業についていけるか不安でした。しかし、授業では、先生方が一つ一つ丁寧に説明してくださり、ちゃんと勉強すれば理解することができそうです。実習や校外研修もそのままでハードではないため、ある程度運動ができれば大丈夫です。

実家を出て寮生活を始めたことで、自己管理能力が上がり、日々の生活に良い生活習慣を取り入れることができた。一度手に入れた良い生活習慣は今後の人生にも役立てられると思います。これから学生生活で今よりも自分を高めて、卒業する時に入学して良かったと思えるようになりたいです。

坂の上の雲



1学年 天間 誠一郎

長野県林業大学校へ入学し、約半年が経ちました。今では学校生活や寮生活にも慣れ、日々充実しています。

地元を離れて林大へ入学し、最初は不安感や停滞感に苛まれましたが、優しい先輩方と馴染む同期に囲まれて生活しているうちに、今では毎日楽しく過ごしています。つくづく自分は恵まれていると感じます。

私は林大の数ある講義の中

で、森林土木分野の学問に興味があります。測量や治山工学は林業に不可欠で、インフラ整備においても重要な技術であるからです。私は高校で農業土木を学びました。更に森林土木を履修し、より高度な技術を習得したいです。卒業後は測量や林道設計などを通して、森林土木で林業の現場に貢献したいと考えています。

林大ではチェンソー実習や植栽をはじめ、普段できない経験を積むことができます。また、木曾には多くの行事があるため、こちらも積極的に参加しています。ボランティアやアルバイトという形ではありますが、今までにない経験をすることができています。

半年後には二年生となりますが、就職活動や資格試験などが待ち受けています。どれも決して容易ではありませんが、しっかりと勉強し、良い結果を出せるように頑張っていきたいです。



1学年 5月 救急救命

林大に入学して



1学年 原 明日華

林大生になってから半年がたち、この毎日の生活に完全に慣れました。初めは初対面の女子三人で二年間本当にやっていたのか不安でいっぱいだったのですが、一か月ちよっと経ったぐらいでそれはなくなっていました。今で

は女子はもちろん男子とも仲良く過ごしています。

林大に入学してよかったことは、林業の専門の知識を教科書だけでなく、自分の目で見るができることです。授業だけでは想像できないことが多く、実習を通して学べることや感じる人が多いので、とても分かりやすいと感じます。例えば木材加工では、木材を加工する機械の構造を学ぶのですが、実際に見るとどのよう動くのか全く分かりませんでした。

だから授業で基礎的な知識を頭に入れてお

て、実習でそれを復習するようになると、関心が深まると思います。

林大生活が四分の一終わってしまつたことに、すぐ時間がたつのが速いと思ひました。これからも一日一日を大切に過ごしていきたいと思ひます。



1学年 6月 初めてのチェーンソー

一年半を振り返って



2 学年 大坪 連

林大に入学して早くも一年半が経ちました。林業についての知識も技術も全くなく入学しましたが、授業や実習、学校生活など様々なことを経験してたくさんのことを学ぶことができています。



2 学年 5 月 木材商業論 (東信方面)

林大生活もあと半年、社会に出るまでもあと半年です。あっという間に過ぎてしまおうと思います。働くための準備はもちろん、林大生活をしっかりと楽しみたいと思います。

関わりながら、遊びでも自然を満喫したいと思っています。

私が林業をやりたいと思った大きなきっかけは「自然が大好き」ということで、林大に入りました。最初、木曾には山しかない。と思っていました。実際に来てみても山しかありませんでしたが、だからこそ、この木曾でしかできないことをしたいと思いました。

川遊びや釣り、登山やウィントースポーツ、キャンプ、森林関係のイベントなどこの一年半で木曾の自然を満喫することができています。これからも木曾に限らず、林業に

林大へ来て



2 学年 小池 真大

私が長野県林業大学校に入って一年と半分ぐらいが過ぎました。入学した当初は初めての寮生活など、不安なことも多くありましたが、四十五期の学生や優しい先生方のおかげで、とても楽しく生活出来たと思います。

私は、森林や自然に興味があり、森林に関する仕事をしたという漠然とした理由で林大に入学しました。

普通科出身で、何も分からない状態から、森林の管理の仕方や森林の多面的機能などの新しい知識も得たことで、森林に対す



2 学年 5 月 車両系建設機械技能実習

る見方や考え方が大きく変化したなと思います。今では勉学に励み、国家公務員試験に合格することが出来ました。林野庁に入庁することが出来たのでこれからも勉強を頑張っていきたいです。また、これからは選択授業など、より実践的な授業内容になってくると思います。授業以外にも、寮祭や地域の祭りや駅伝などイベントが多くあります。残り半年の林大生活を悔いのないように生活していこうと思います。

二年になって



2 学年 新宮 慈門

林大に入学してから早くも一年半が過ぎ、残り半年になりました。思い返せば、この一年半の林大生活は長いようで短く今まで様々な研修やイベントを経験してきました。私が一番印象に残っているのが屋久島研修で、まだ入学したてでお互い慣れてないなか団結して、縄文杉までの道のりを声を掛け助け合いながら登ったことは一生の思い出です。

入学した当初は、初めての寮生活で不安しかありませんでしたが、個性が強い四十五期の皆と過ごしていくうちに、私も少しずつ自分らしさを出せるようになっていきました。

林大生は様々な場所から集まり、色々な考え方を持った人が多いので、私自身たくさん影響を受けて、少しは視野が広がったのかなと思います。

一年次は座学がメインで試験やそれに伴った課題も多かったですが、同期と試験前日に深夜まで勉強し課題に取り組む時間など、今振り返えればかけがえのないものだと実感させられます。

これからの目標としては、十月の信州伐木チャンピオンシップで良い結果を残したいのと、その後は三林大対抗選手権もあるので後悔が残らないよう、より一層チエーンソー技術を磨いていきたいと思っています。

卒業した後は、四十五期の皆もそれぞれ全く違う進路先となり、全員揃っての林大生活はあと半年だけと考えると少し寂しいですが、来年への準備と悔いの残らないよう一日を噛み締め過ぎていきたくないと思っています。



2学年 6月 測量学 (演習林)

林大生活を 振り返って



2学年 畠山 星哉

長野県林業大学校に入学してから約一年半が経ち、寮生活も残り半年となりました。林業大学校に入学してからは、様々なことを経験し学んできました。特に二年生になってからは、資格取得やイ

ンターンシップ、校外研修など忙しいことばかりです。ですが、放課後や休日に友達と遊んだり、地域のバレーに参加したりと充実した日々を送ることができました。一つ心残りがあるのが、入学当初に自分の中で立てた「体力や筋肉をつける」という目標です。正直なところ、「忙しい」を言い訳に先延ばしにしてきたので残りの半年は頑張ろうと思います。この一年半は、過ぎてみればあっとい間だったと感じるような濃い日々でした。残りの半年も多くの行事があり、あっとい間に終わってしまうと思います。実際、これを書いている時も、寮祭の準備や就活などがあり、毎日が忙しいです。残りの林大生活を大切に過ごしていきたいです。



2学年 9月 林業架線学

二年生になって



2学年 山本 載幸

林大に入学し、早いもので一年半という月日が経ちました。入学当初は初めての寮生

活ということもあり、不安でいっぱいでしたが、すぐに四十五期の仲間と打ち解けることができ、苦楽をともにする友ができました。林大の学生は全国各地から集まっているので様々な性格の人がいます。みんなと生活していく中で自分と正反対の性格の人もいます。そういった人たちに刺激され何かに挑戦したり、行動してみる機会が増えた気がします。このことから、私は林大に入学して、少しは人として成長できたかなと思います。

新しい一年生が入学してきて、私たち先輩という立場になりました。私たちの先輩である四十四期の皆さんはとても優しい方たちで、大変お世話になりました。私も一年生に対してお世話になった先輩方のように接し、見本となる先輩になれるように努力していきたいと思っています。残り半年勉学に励み、悔いのない学生生活を過ごします。

保護者の
ページ

絵
の
一
言

林業に

魅せられて

伊藤 達也



娘が入学してから半年。友達と意気投合し、充実した毎日を過ごしています。我が家は林業には縁がありませんが、子どもたちが幼い頃からキャンプや山登り等のアウトドアに出かけることが多く、娘も自然が好きになりました。小学生の時ツリークラ

イミングの体験会に何度か行き、誕生日プレゼントに「ハーネスがほしい」と言ったこ



1学年 6月 トップガン研修

とがありました。私が専門ではなかったので結局購入してやれず、「林業をすれば毎日木に登れるんじゃない」と言ったことが、もしかしたらこの道に進むきっかけになったのではと思っています。

林大の入学式で「森づくりは人の一生よりも遙かに長い年月を見越した仕事である」「木は言葉を使わないから、森に入り五感を通してそのメッセージを感じる」といったお話がありました。壮大な時間の流れの中で自然と関わり、豊かな森を先人から未来へと繋いでいく。そんな林業の仕事に携わる中で、人として大きく成長することを願っています。

未来に幸あれ!

菊地 元一



「林業の学校に進学したい」と言い出したのは、高校二年の秋ごろでした。はじめは林業?!とも思いましたが、

林大と環境に

感謝をもって

須藤 博紀



入学してからもう六ヶ月が過ぎました。入寮日、私達も不安な心持ちでいましたが、先輩方に出迎えてもらい、テキパキと荷物を運んでいただき、その姿に安心感と頼もしさを感じたのを覚えています。

彼のゆるがない熱意に私たちも本気になって応援しました。縁あって入学が決まったときは本当にうれしかったです。ただ、住まいである福島県から長野県は距離があること、初めての寮生活、友達や先輩とうまく付き合えるか、勉強についていけるか、準備期間は心配が付きにくい毎日でした。そして迎えた入寮日、さわやかな笑顔の二年生がさっと荷物を運び入れ、寮生活などについて説明している様子にほっとしました。その

す。入学してから屋久島研修等あり、仲間達との絆も深まり、冗談を言い合う、そういう話を聞いていると馴染めたことに安堵しました。また、本人も少しずつ成長しているところが垣間見え、とても嬉しく有り難いことと思っております。先生方、寮母様方、ご協力いただいている方々、先輩方、仲間達、林大生を支えている皆さんのお陰様でございます。勉強は勿論大切ですが、この有り難い環境での時間や経験、繋がりと情熱、同じ釜の飯を食った仲間達、etc.:素晴らしい財産になることと思えます。

後も先生方や先輩、友人たちに支えられながら充実した時間を過ごしているようでありがたいの一言です。進学後は長野の情報メディアから流れれば興味深く見たり、どんな交通手段を使えばお得に行き来できるのかを調べたりすることも楽しみのひとつになりました。きつとあつという間の二年間だと思えます。今後の進路も含め、自身の望む未来に行きつくことを願っています。彼のそして林大生全ての未来に幸あれ!

あと一年半、皆と思い切り楽しみ、貴重な時間を過ごしてください。この環境はけっして当たり前ではなく皆さんによって与えられた有り難い環境です。自分の好きなことに真剣に打込んだり、自己肯定感を高めたり、感謝を忘れず世に役立つよう成長してもらえたらこの上なく、御の字です。皆様これからもよろしくお願ひいたします。



親は応援団

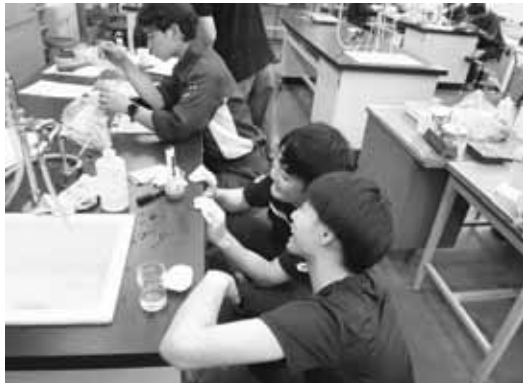
布元 由美子



「林業」……どこからその発想は生まれたの？

これは高校二年生の夏、息子の口から出た言葉に対する私の気持ちです。

生まれ育ったのが駅やコンビニなど徒歩圏内にあるとても便利な街の中心地。通っていた高校も普通科で、進路は



1 学年 9 月 森林土壌学

普通に地元の大学だと思っていました。

息子は元々地図を見たり、自転車で気になる場所へ出かけるのが好きでした。あちこちに行っているうちに段々と山や森などの自然豊かな田舎へ出向くことが多くなりました。そして彼自身、自然が好き・自然に関わる仕事に就きたいと思うようになったようです。

私の中で林業とは、大自然の中で危険と隣り合わせのとても大変な作業をするイメージでした。しかし本人が決めた進路なので親としては応援するのみ。色々調べてみると近年は機械の発達などもあり決して屈強な男性である必要がないのだとわかりました。林業女子も活躍してみたいですね。

林業におけるSDGsを実現するために、広い視野をもって森林・林業・木材利用に関する活動に貢献できるよう、今後の林業界を支える人材となるよう希望をもって頑張ってください。応援しています！

出会い・経験は宝の山!!

牧野 博臣



林業の勉強をすると決めてから、灼熱の京都・静岡の林

林大での財産

赤羽 清吉



地元の長野県林業大学校に進学。時として広い世界を見せることも必要かと思いますが、一度きりの人生を地元で学べるのが、とても親としては嬉しい限りです。幼い頃から体を動かすことが好きで、勉強よりスポーツを中心にここまですべてしてきました。

大オープンキャンパスを巡り、結果、地元の学校に合格することが叶い現在に至っています。

早くも半年が過ぎました。寮生活が楽しいことに加え車の免許や念願のバイク免許を取得したり、アルバイトでの小遣い稼ぎやバレーボールで汗を流したりと充実した時間を過ごしているようです。が、油断大敵！あと半年たてば二年生となり就職、あるいは

木曽青峰高校時代に農業クラブにおいて全国大会や仲間と学びを深めることに興味を持ち、学ぶ姿に感心している頃に林大への進学を考え、早いもので既に二年生となりました。入学した当初から進路のイメージは固まっていたので一年次より先生方と話をすることで、進むべき道へ向かって努力はしていた様でしたが、私からすると精神的にも弱いところもあるので心配することも多々ありました。実際には、多くの仲間を支えられ、林大生としての生活も残りわずかとなろうとしています。限りある時間を過ごすことで人生の財産を得ることが出来たかと感じています。

は進学を自ら意思により決定していかねばなりません。

「夢なき者に成功なし」有名な言葉です。自分の将来に向けて計画・実行あるのみです。

林大の先輩・同期生・後輩との出会い、大学で習得した知識・技術をこれから生きていく上での宝とし、よりよい人生のために大切にしたいと思います。

御縁あつた皆様には感謝御礼申し上げます!!



二 学年 七 月 ドローン研修

諦めず、
前向きに

近江澤 那美



木曾の御嶽山の麓、王滝村で生まれ、すでに「転勤族」だった息子。転勤族十年の節目に上伊那郡中川村にある、主人の実家に定住を決めました。それから、五年。息子に初めての進路という言葉が聞こえる季節になり、息子は主人と二人暮りで佐久市の高校で三年間過ごすことを選択しました。学びの中で二度目の選択が林業大学校でした。その林大での生活もあと半年。

社会人になると自分で考え、自分で勉強することになります。今は教えて下さる先生、支えて下さる方々、共に分かち合える友人がいる環境がとても恵まれているのだということを、感謝の心とともに忘れずにいて下さい。そして、これからも自分の思いを

諦めず、一步先へ歩む勇気を持ち、自分に正直に、大好きになって下さい。

努力は決して無駄にはなりません。悔いのないよう夢に向かって、いつまでも前向きに色々な経験を積んで下さい。

林業に進むの!?

小山 憲二



題目の言葉は、息子と進路について話をした時「林業大に進みたい」と聞いた瞬間、頭の中を駆け巡った言葉です。この時大学の付属高校に通っており、私は「このまま大学に進学かな」と思っていたので大変驚き、又息子も進みたいとは言ったものの、身近に林業経験者も居ない中で決心したことであり不安も大きかったと思います。その様な中で入学した息子も帰省した際、足場も悪い急斜面の伐採作業を見掛け、「将来はあの特殊伐採をやりたいんだ

よね」等と語り、仕事道具を手入れしている姿やインターン先で作業している姿を見て「着実に進んでいるな」と安心し、同時に「未知の世界」に足を踏み入れ躍動している息子を誇らしく思います。半年後には自分が信じる「林業の道」に進むことになりましたが、「男子一生の仕事」を肝に銘じ胸を張って突き進んで下さい。頑張れ!!

林業への道

永島 しのぶ



木曾に生まれ幼少の頃は二人の兄について野山を駆け回り、川では魚を追いかけて、祖父からはきのこや山菜採り、木や野生動物の事を教えてもらい自然に親しんで育ちました。そして中学生の頃、将来は林業を仕事にしたい、という思いが芽生え高校は森林環境科へ、その後も思いはゆるぐ事なく林大へと進んで来ま

した。林大では実習や研修を経験し知識を深め、又仲間と生活を共にし充実した日々を過ごす様子が窺え嬉しく思います。

只今就活中、進路について話す中で林業の道へ進む事への覚悟、社会人となる事への決意を語る息子に成長と頼もしさを感じ胸が熱くなりました。

卒業まで半年となりました。関わって下さる方々へ感謝し、一日一日を大切に過ごし、仲間との林大生活を楽しんで欲しいと思います。

感謝

三宅 真吾



木曾の学校、一学年二十名、全寮制・四人一部屋と聞いて、栃木県からほとんど出たことのない人が、随分と遠くで、「やっていけないんじゃないか?」と最初に思いました。小さい時から自然系に

二学年 九月
フォークリフト実技演習



興味があり、地域の観察会や体験会によく参加しては、親そっこのけでガイドさんや講師の方にくっついていってしまふ人なので、興味を持てる学校を見つけてのチャレンジ、「なんとかなるんじゃないか」と思うことになりました。一年半経ったところですが、植木の手入れをしていると、あれやこれやと教えてくれる様になり、興味は尽きず色々と学ばせて頂いていることを実感しております。学業以外にも貴重な経験を積ませて頂ける学校に出会えたことは、彼だけでなく親にとっても幸運なことであったと、感謝しております、この場を借りてお礼申し上げます。

良き林大生活を



細川木材 太 翔太
(第 40 期生)

ます。
チェンソー作業は元より造
育林作業や重機オペレータと
しても少しづつ経験を積んで
います。

七月には二名の林大生がイ
ンター先として勤務先を選
んで頂き、現場作業の見学と
軽作業を一緒に正しい山仕事
を体験してもらいました。

夏季休暇の暑い中でのイン
ターは大変だねと話をする
一服休憩の一コマで、卒業し
た自分と在学生在が山の中で林
大での日常や実習、普段の寮
生活の話が出来た事をなんだ
か嬉しく思えました。

その時、学生に伝えた事を
この「檜のアドバイス」で在

学生の皆さんにささやかなが
らお伝え出来たらと思いま
す。

専門的な分野を学ぶにあ
たって座学でも実習でも思っ
ように上手くいく事いかな
い事が人それぞれあるかと思
います。

その時に出来ない理由を、
なぜ?どうして?と一生懸命
模索するのではなく少しでも
今、自分が出来る事だったり
今何をすれば良いかポジテ
ィブに考えて先の転換に繋げ
る事が出来れば多少つまづい
てもまたすぐに進めると思いま
す。

もう一つは聞く習慣です。
興味のない事、専門外の事

には興味が湧かず聞く事に対
して疎かになりがちですが、
自ら進んで勉強したい講義や
人の話だったり意欲的に聞
きにいつてほしいものです。

受け身の姿勢も時には大事
ですが、自発的な聞く姿勢を
見せておつこイツ聞く気やる
気だなと思わせるくらいが丁
度良いかもしれません。

自分の代(四十期)の集ま
りが度々あり、その日の仕事
終わりにでも仕事の相談に
乗ってくれたりたまの飲み会
も気軽に開ける同期の仲間が
居てくれるのは心強く嬉しい
なと感じます。

在学生の皆さんも二年間の
寮生活を共にした仲間との繋
がりや卒業後も
同期として大事
にしてほしいと

思います。
同期の人と就職してから久
しぶりに会う機会だったり研
修先で会ったり、はたまた仕
事での取引先として会う事
もあるのかもしれない。

そういつた時に得られる刺
激は大きく自分も頑張ろうと
思える事に繋がると思いま
す。

私用で木曾を訪れては気持
ちばかりの差し入れを持って
行く度に、元氣な挨拶で生徒
が出迎えてくれるのは清々し
い気持ちになります。

最後に、今自分が大事にし
ている事や好きな事を見失わ
ないよう、謙虚な姿勢を大事
にして自分の夢やりたい事を
追い続ける為の良き林大生活
を謳歌して下さい。

陰ながら応援しています。

光陰矢の如し



一学年担任
百瀬 浩行

卒業後、現在私は地元で素
材生産を主とした林業事業体
で現場作業員として働いてい
るか?

檜のアドバイス

もあり、数年前は林業架線
学(学科)の一部を受持った
ことはありますが、学校職員
としてまた担任として学生の
皆さんと関わるのは初めてで
す。赴任して既に半年が過
ぎ、やっと学校生活に慣れて
きました。毎日何かと慌た
だしく過ごす日々です。

四月から九月までの間に一
学年の皆さんとは将来の就
職・進学先について、学習に
ついて、寮生活についてなど
を中心に個人面談を二回行い
ました。学生の皆さんはまさ
に「十人十色」、様々な個性

があり考え方も違います。一
年生は入学してまだ半年との
こともあり、今の二年生の様
に「この道に進む」という
はっきりとした方向性をもつ
た学生は少なく、インターン
シップ、学校での学習・実習
を経験しながら自分にあつ
た、また自分のやりたい道
を模索しているところ。す。

もし私と私の面談で、
この生徒の一生となるかもし
れない仕事先が決まるのかも
と思うと、一人一人に對し
て、体力・性格・技量など考
えながら真剣に、そして責任

感を感じながら面談
をしていこうと
感じながら面談
をしていこうと

今後就職を控えている皆さ
んに共通して言えることを一
つ。我々学校職員は、「この
学生は普通科から入っている
からチェンソーの扱いが不慣
れ、専門知識が身につけてな
くても仕方ない」と学生の
特徴を知っているからこそ
目で見ますが、いざ卒業する
と世間からの目は「林業大学
校を出ているのだから」と林
大生全員が森林・林業に広く
知識・技術を持つているはず
と期待を込めた目で見ます。

(実際私もこの言葉を何度も

林業大学の二年間は慌た
だしくあつたという間に過ぎて
いきます。一つでも良いので
早く得意分野を見つけ出し、
充実した学校生活を過ごして
下さい。

下さい。

林大生の活動報告

今年度、学期はじめに新型コロナによる学年閉鎖などがありましたが、以降は、コロナの影響を受けることなく様々な活動を行うことができました。林大生は持ち前の「パワー」を存分に発揮し、地域の皆さまとの交流を深めることができました。ここに掲げたのはそのほんの一部ですが、今後も地域を愛し、地域に愛される林大生であってほしいと願います。

木曽こども園児との交流（4月）



4月24日、2学年生が近くの木曽こども園の園児たちと「駒打ち体験」で交流しました。園児たちからは大きな笑顔がこぼれました。

御嶽山登山道整備に参加（7月）



7月2日、御嶽山登山道整備に1学年が参加しました。枕木の整備、草刈り、雨水対策の水路づくり作業に地域の方々と一緒に汗を流しました。

みこしまくりに参加（7月）



7月23日の「水無神社例大祭（みこしまくり）」に、林大生19名が参加。みこしを担ぎ、魂あふれる木曽の熱い夏を堪能させていただきました。

オープンキャンパスで実技を披露（7・8月）



7月27日、8月25日の林大オープンキャンパスで、2学年メンバーが日頃研鑽に励んでいるチェーンソーや林業機械の操作技術を「スゴ技」として披露しました。



林大HP



facebook



instagram



■事務局 長野県林業大学校内
〒397-0002
長野県木曽郡木曽町新開4385-1
TEL 0264-23-2321
FAX 0264-21-1058